



# 井上 道義の 未来だった今より

オーケストラ・アンサンブル金沢は先日、金沢市の小学校でちょっとすてきな企画をした。まず、楽員がバラバラになってすべての教室に散り、担当のクラスで楽器や音楽の話をし、持参の楽器を奏でる。それから、子どもたちを体育館に連れ出し、全校児童とOEKの学校訪問全メンバーがそろったところで、今度はオーケストラでベートーベンのひとつの楽章を演奏し聴いてもらったのだ。楽器と音楽家との、個人個別のふれあい。その多様な個が集まって、作り上げるものの豊かさ。音楽を丸ごと感じてもらう企画だ。

膝からも汗がふき出す暑さの中、体育館での演奏だったが、子どもたちから忘れられない贈り物をもらった。演奏の前にラの音で合わせたとき、「なんでみんなであくびしているの?」と手をあげた子がたくさんいた。なんと  
いう感性! 楽員さんはそれ以来、ラ

を合わせる日課が楽しくなった。小さなことに隠れている驚きを素直に驚くこと。我々が彼らから学んだ。

僕も昔は子どもだったから色々思い出す。夏は暑くてもつらかったという記憶がないとか。言葉は通じないのに外国人でも子どもとなら遊べたとか。その頃覚えたことは今も覚えていて今でも間違えないとか。嫌な経験は意外と忘れているとか……。それは僕の性格かもしれないが子どもはみんなそうなのではないか? 今より明日が面白そうだという気持ちにあふれ、知らないことを知り、知らないところに行くときのドキドキワクワク。老いるとそれがなくなるのだろうか?

いや、それすらもまた認めよう。受け入れよう。死をはじめての経験としてドキドキワクワクして。

(オーケストラ・アンサンブル金沢)  
音楽監督

